

# 第 57 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2019.6.14 熊山 ともみ

## 『ロサーゼット配合錠 LD/HD』

MSD 株式会社 大坪さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、相原美穂、味田村俊次、薦田麻莉子、田中梨沙香、  
小瀬村恵理、安元穂子、鈴木亜湖、熊山ともみ

日本の動脈硬化性疾患予防ガイドラインでは、食生活などの生活習慣の改善を含む非薬物療法を基本としつつ、脂質異常症、特に高 LDL コレステロール (LDL-C) 血症の薬物治療の第一選択薬として、HMG-CoA 還元酵素阻害薬 (スタチン系薬) が推奨されている。生活習慣病患者では、1 剤では改善されないことも多く、作用機序の異なる 2 剤が配合されたロサーゼット配合錠について学んだ。

### 【効能・効果】

高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症

### 【用法・用量】

通常、成人には 1 日 1 回 1 錠 (エゼチミブ/ロスバスタチンとして 10mg/2.5mg 又は 10mg/5mg) を食後に経口投与する。

### 【禁忌】

- ・本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・重篤な肝機能障害のある患者及び肝機能が低下していると考えられる以下のような患者
- ・急性肝炎、慢性肝炎の急性増悪、肝硬変、肝癌、黄疸〔これらの患者では、ロスバスタチンの血中濃度が上昇するおそれがある。また、ロスバスタチンは主に肝臓に分布して作用するので、肝障害を悪化させるおそれがある。(「薬物動態」の項参照)〕
- ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕
- ・シクロスポリンを投与中の患者〔「相互作用」の項参照〕

### 【副作用】

国内の臨床試験では、278 例中 14 例 (5.0%) に臨床検査値の異常 (ALT 増加、肝機能

検査異常)を含む副作用が認められた。

【特徴】

- ・ロスバスタチンとゼチーアの合剤である。
- ・第一選択薬としては用いることができない。
- ・薬価がゼチーア単体の価格のため、医療費を抑えられる。

【考察】

ロスゼット配合錠は、多剤併用を必要とする患者の服薬負担を軽減することで、服薬アドヒアランスを改善することが期待できる。また、2剤配合されていることによって見落としがちな、副作用はチェックが必要だ。

ロスバスタチンからの切り替えは可能だが、ゼチーア単剤からの切り替えは認められていない為、確認していきたい。

さらに、単剤ずつでは可能な一包化も、ロスゼット配合剤になると1ヶ月以上の安定性が認められていないため、一包化不可となる。コンプライアンス向上を見越して1剤にしても、2剤に戻すことになるので、処方日数の確認と患者さんの薬剤管理能力の見極めが必要と考える。

Q. 質問

アトゼット配合錠からの切り替えは可能か？

→添付文書中では認められていない。